

(行政視察・政務活動・**議員研修**) 報告書

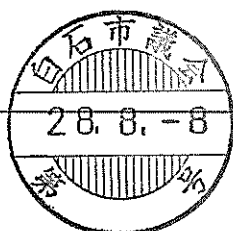
平成28年 8月 8日

白石市議会議長 佐久間 儀 郎 殿

議員氏名 山田 裕一

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成28年7月27日(水) ～ 7月29日(金)
調査・研修先	市町村アカデミー
調査事項 (研修事項)	市町村議会議員特別講座 ～政策の企画立案～ ①
対応者・講師等	○食環境ジャーナリスト、総務省地域力創造アドバイザー 金丸 弘美 氏 ○相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科教授 松下 啓一 氏
概要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	○事例から考える政策調査・研究活動 金丸 弘美 氏 今、地域で注目され成功しているところは、消費者の欲しいものを調査して食べ方まで提案している。人材教育に力を入れて、売れる品種やレシピを提案している。また、外部との交流事業で新たな視点を作っている。そして景観や環境づくりにも力を入れており、中には再生可能エネルギーに力も始めている。つまり、地域に必要なものを揃え、いいものをきちんと消費者に伝え販売することが地域に必要なとされる存在になるのだと考える。そのヒントは、 ①地域の持てるものを徹底して集約し方向を明確にしている。 ②人材教育に力を入れ若者を育てている。 ③ものづくりに時間と労力を注いで商品を作り上げている ④外部に視察に出かけ食欲に外部ノウハウを吸収している。 ⑤外部との接点で対外的に売れる新たなチャンネルを作っている。 ⑥消費者の接点を作り、何が求められるかを把握しながらポイント



を絞って商品を開発する。

⑦体験教室があつて参加して楽しめる。

⑧メニューとレシピを提案し、実際の料理を提供している。もしくは、きちんとしたパンフレットを作成し、ビジュアルで見せる。レシピにちゃんとお金と手間をかけている。

⑨食材の材料、なりたち、食べ方、料理法まで、きちんと背景を語れる。

⑩栄養士と連携し、健康面での食べ方が提案できている。

⑪食育を行い、相手に伝えることができている。

⑫学校給食も巻き込み地域連携をしている。

つまり、地域に必要とされ成果を挙げているところは、これまでの農業、観光、商品など、ばらばらだったものを全体で捉え、お客さんが喜んで食べて楽しめる、来て楽しめる、泊まって楽しめる、見て楽しめるなどを総合的に考え形にしていることが分かった。さらに生産だけではなく、加工、販売、料理、サービス、営業までトータルでものを考える時代であり、アウトプットを総合的に考え、生産や加工を考えなければならないことを本講義で理解することができた。

○議会における政策立案の考え方

松下 啓一 氏

・政策づくりは総合格闘技である

⇒つまり、頭を使い、手を使い、口も使う

・本当に必要なことを条例にする

⇒担当が作るのが条例ではない。必要だと思う人が作るのが条例である。

・政策を作る上で調整・合意が難しい

⇒総論賛成・各論反対

○市民の思いと議会の活動とのギャップ

・市民の6割は議会・議員は何をやっているのか分からない。

・議員は、「自分達はしっかりとやっている。」思っている。

乖離の原因は、市民ニーズ（期待）とずれている。もしくは、議会のやっていることがきちんと伝わっていない。

⇒その解決方法として議会としての政策条例提案が必要である。

○政策とは、思いつきではなく、きちんとして裏付け（他者に対して説明できること）があるもの。

○地方分権＝地域のことは地域で⇒地域住民の奮起がなければ地方分権は乗り切れない。

○少子高齢化社会

- ・人口減少⇒税収の大幅減少
- ・高齢化⇒社会保障費の急激な増加

○議会・議員の最重要な役割

- ・自治の基本をきちんと伝えていく役割
- ・様々な手段を使って多様な情報提供
- ・議員としての専門知識や情報を活用して計画づくりのアドバイス
- ・複雑な問題は、二分論的ではなく、住民に多面的な問題として理解してもらうために地域での懇切な説明が必要。
- ・行政のチェック機能を果たしながら、自ら考え、汗を流して、まちのために活動をする市民を増やす。⇒まちづくりの担い手としての住民を育てる機能を作り上げる。
- ・A案とB案がある場合は、それぞれの良さや弱点がある。それぞれの良いところを取り入れてよりベターなC案を作り上げることが議会に求められる。

<議員提案の政策条例の必要性>

- ・誤ったコンプライアンスの風潮がある⇒どこに法的根拠があるのだというクレーム⇒もともと法律には限界がある⇒リスクを避け、行政は守りに入ってしまう。
- ・職員が安心して行動できる裏付けをつくり、職員が大いに力を発揮できるための条例を作らなければならない。

<感想・考察>

今回の議員研修では、「事例から考える政策調査・研究活動」、「議会における政策立案の考え方」の講義、さらに「地域資源を活かした交流・定住人口増加方策について」とのテーマでの政策立案演習

で学ばせていただいた。国は、「地方創生」の旗印の下、地域の特性や特色を活かし、如何にして地域を活性化するかを見極めて支援しようとしている。

今回の講義では、地域活性化で成功した事例を数多く学ばせていただいた。成功事例のヒントは、「地域でどのように自治経営をしていくのか。強みはどこか。弱点は何か。」を常に考えていることである。そして、議会の役割は、市民の期待に応え、自治体職員の期待に応え、政策条例を作っていかなければならないことを学ばせていただいた。少子高齢化社会の進展により、今後の自治体経営は、これまで以上に厳しさを増すことは必然である。そのための議会の役割は極めて重要である。議会として、市民・自治体職員の期待に応えられる政策条例を作り上げなければならない。また、議会の視点ならではに政策提言が必要である。そのためには、議会としてこれまで以上の情報収集をして、常に政策を考える訓練を積まなければならない。地方創生のポイントとして挙げられるのは、合計特殊出生率だが、合計特殊出生率ベスト30の自治体の特徴は、

- ・地域コミュニティがしっかりしている。
- ・子どもを預けられる親戚がある。
- ・子どもを安心して預けられる環境がある。

つまり、地域コミュニティの充実が必須。

そして、まちを元気にする試みは、そよ者・若者が地域資源を発見する。つまり、まちづくりは産業振興であり、それが起業支援につながる。

最後に政策立案演習を通して、全国で活躍している地方議員の方々と絆を深めることができた。また、それぞれの地域活性化と議会改革についての様々な課題に積極果敢に取り組まれている事例などの話を聞かせていただいた。今後の活動に大いに参考になった議員研修であった。